

■和歌山県津波予測システムによる津波予報の提供

近い将来、発生が懸念される南海トラフ地震は、紀伊半島が震源域に近く、激しい揺れと短時間で津波が到達することが想定されるため、県では市町村とともに「津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム」など地震津波対策に積極的に取り組んでいる。

和歌山県では、(国研)防災科学技術研究所(NIED)所管の紀伊半島沖合の海底に設置された地震・津波観測監視システム(DONET)による地震津波観測網を活用して、津波の規模などを予測できる津波予測システムを(国研)海洋研究開発機構(JAMSTEC)と共同開発した。

市町等の防災対応に活用するため、気象庁の許可を得て、平成27年4月から津波予報を始めた。津波の実測データに基づき予報は「世界唯一」のものである。

南海トラフ地震が発生し沖合で津波を観測した場合は、県内の沿岸市町・消防本部に、津波到達予測時刻、津波高、津波の浸水範囲等の津波予報を提供するとともに、直接住民(県内全域)にも、緊急速報メール、エリアメールで避難を呼びかける。

津波予報については、これまで熊野灘沖に設置されたDONET1の観測情報を利用して、みなべ町から那智勝浦町までの7市町38か所を対象に行ってきたが、平成28年4月に紀伊水道沖に設置されたDONET2を活用することにより、平成29年9月11日から県内沿岸全18市町98か所を予報対象区域として行っている。

沿岸市町及び消防本部において、県民の命を守るため、気象庁等の地震津波情報とともに、津波予測システムによる津波予報を十分理解して、南海トラフ地震の発生時には住民への避難の呼びかけや災害対応などに活用することとしている。

【地震・津波観測監視システム(DONET)】

